

季 刊

生 活

第 3 号



Quarterly: SEIKATSU 3

Issue: Relax

生活工房
Lifestyle Design Center

リラックス

2019

10・11・12

秋の訪れを、何で感じていますか？
朝晩の涼しさ、虫の声、雲のかたち…、
金木犀の香りも、漂いはじめます。

生活工房ではこの秋、
展覧会「すわるを旅する」を開催するほか、
「日常を見限らない」シリーズにて
句いのワークショップを行います。

嗅覚をはじめとした、
自身の感覚に集中することで、
季節だけでなく、日常における
ささやかな変化に気がつくことが
できるかもしれません。

冷たくてよりはじめた秋の空気を
思いやりと吸い込んで、
さあ、リラックス、リラックス。

もくじ Contents

- 03 インタビュー 井上耕一
Interview Koichi Inoue
- 08 すわりのいい銭湯
- 09 世田谷のおとなりさん③
“世田谷区上馬のシホさん”
- 10 生活工房のイベント Event Guide
- 16 生活工房のご案内 Access Guide

cover photo: Koichi Inoue

第3号のテーマは、リラックス

椅子にすわり一息つく。ソファにすわりくつろぐ。
めまぐるしい現代社会においては貴重な時間かもしれません。

しかし、私たちがかつて畳の上で暮らしていたように、
椅子のない世界で暮らしている人たちもいます。
その人たちはどんな格好でくつろいでいるのでしょうか？

生活工房では、椅子を使わずくつろぐという
行為に着目した展覧会を開催します。



親密さを示すために1つの器から2人で酒を飲む (エチオピア, 2006年)
photo: Koichi Inoue



椅子のない世界では、地面にしゃがみ込んだり、
低い腰かけを用いたりする暮らしが営まれています。

この冊子では、アジアやアフリカで
民族学的なフィールドリサーチを通じて、すわる人々を見つけてきた
井上耕一さんに、その旅のはじまりを伺いました。

そのほかに、P8~9では、
世田谷区内のデザイナーさんと区民の方が登場。
忙しい日常における安らぎの
一時について紹介します。



井上耕一さん

世界をめぐり、モダンデザインからフォークロアまでを
リサーチしてきた井上耕一さん。

人の営み、そしてその原風景を見つめ、
たどり着いたのがキーワード“あの坐り方”。

〈すわる〉という行為に着眼した井上さんに、
展覧会「〈すわる〉を旅する—アジアとアフリカの、
あの坐り方と低い腰かけ」にさががけ、
人類の歴史を遡行するような旅について伺いました。

text and photo: 杉本勝彦



—— 学校で教鞭を執る傍ら、井上さんがデザインリサーチャーとして世界
をめぐるようになったきっかけを教えてください。

70年代のはじめ、30歳代前半から桑沢デザイン研究所でインテリアや
建築について教えることになったのですが、当時はモダンデザインを教
える学校は少なく、教材となる資料も少なかった。それで教えるためには
自分が実物を見る必要性を感じて、30歳代後半はヨーロッパやアメリカ
に行き、近代建築やデザイン、アートの作品を見てまわり、写真を撮り、
授業のなかに組み込んでいました。そうして欧米をまわると、だんだん自
分のアイデンティティについても考えるようになる。そもそも欧米とは文化
や歴史が異なるのに、そこで生まれたデザインや建築の考え方を日本に
適用するのは難しいのではないかと。それで日本の建築や工芸の歴史を
調べるようにもなりました。そのときに参考になったのが当時盛んに書か
れていた照葉樹林文化論です。ヒマラヤから東南アジアを経て、中国・
江南地方から日本まで、アジアを横断する照葉樹林が植生する環境で生
まれた文化の共通性が着目されました。例えば、漆や鵜飼、茶、絹織
物です。そこに関心を寄せると、現在の実情はどうなっているのか、やっ
ぱり見たくなる。それで80年代からアジアにも行き始めたんです。

—— 生活は欧米化しているのに、日本のルーツをたどるような旅へと出ら
れたわけですね。それも伝統的な暮らしが残る少数民族のいる僻地へと。

最初に行ったのはタイです。メコン川沿いにタイ、ミャンマー、ラオスの
国境が隣接する地域「ゴールデン・トライアングル」をまわるという小さな
旅行会社が企画したもので、参加者は6名でした。今のように観光地化
する前で、治安が悪いエリアでしたが、アカ族やヤオ族といった少数民
族にも会えました。それから1人でも行くようになり、現地ガイドを雇って

アジアとアフリカの “あの坐り方”

「あの坐り方」とは、
両足の裏を地面につけたまま腰を下ろし、
両膝を立ててしゃがんだ姿勢のこと
（時に低い腰かけも使用し補助する）。

該当する呼び名がないため
井上さんはこのように名づけた。

photo: 井上耕一



市場にて（エチオピア、2006年）



休んでいる老人（ミャンマー、1999年）



舟をこぐ（ミャンマー、1999年）



陶器作り（インド、2005年）



塾で勉強する子どもたち（ミャンマー、2011年）



食器を砂で洗う（インド、2008年）



チャパティを焼く（インド、2008年）

タイの奥地まで行くこともできました。食料と水を積んだミニトラックに乗り、僻地の村をたどっていくわけです。

次に、服飾学校が中国の服飾事情を調査するツアーに同行し、初めて中国を訪れました。雲南省や貴州省といった山岳地域の少数民族の村で織りや染めを見てまわりましたが、そこで旧来の生活様式を目の当たりにしました。それで中国の辺境の地が面白くなり、多いときは年4回ほど行くように。失われつつある文化を記録しなければいけないという思いがありました。雲南省だけでも25の少数民族がモザイク状に点在していて、村によって民族衣装が違ったりもしますから、1民族1箇所を見ればいいわけでもない。そうやってまわり始めると、人間にとって基本的な生活が見えてくる。それから民族間の共通点と相違点を探すようになり、住居や家具、道具類がどうなっているかを調べていきました。雲南省だけでも大変ですが、国境を越えた先にも同じ民族の人たちがいる。だからベトナムやミャンマー、ラオスへも行くようになり、そうするとさらに共通点や分布の状況が見えてくる。そんな資料が集まる中で〈すわる〉ということと、その補助具としての腰かけに興味を持つようになりました。中国本土は椅子の文化ですが、奥地へ行くと当時椅子がほとんど入ってなくて、“あの坐り方”をしている人たちが現れる。それが1例だけなら特殊な例ですが、同じ例が集まるとつながりが見えてくる。アジアをめぐるにあの姿勢で作業をし、食事をし、ろくろをまわし、また船を漕ぐ姿もありました。インドでは、1回ろくろをまわす間に器の原型まで作ってしまう。その例がいくつもあるので、それは名人芸ではなく伝統的なやり方だと考えられるわけです。



——井上さんの民族学的なリサーチはインド、中東と人類の移動のルートを逆行し、最終的にはアフリカへとたどり着きます。極端に言えば、私たちは「すわる=椅子」という生活の中にいますが、生活工房の展覧会では、道具と身体の関係性を文化や環境といった背景から考える場になりそうですね。

中国以外のアジアに椅子の文化を持ち込んだのは当時の支配階級で、そもそも椅子はメソポタミア、エジプトに生まれ西洋に広まった流れと、中国のとくに宋の時代に広まった流れがあります。つまりそれまで他の地域は椅子のない世界で、人間は椅子にすわらない生活をしていたわけです。ただ、これだけ椅子文化が浸透しても、イスラム教徒がお祈りをするときやミャンマーの仏教徒がお参りをするときは正座をするし、たとえば椅子があっても椅子の上で“あの坐り方”をしている人も見ました。また、“あの坐り方”や正座をせず、椅子に長時間すわるようになったことで、近年では健康問題も指摘されています。いろんな土地で生活を見てきましたが、湿気の少ない乾燥地帯は床にゴザを敷いて寝て、湿気の多いモンスーン地帯では高い台を作ったり高床住居にしたりして寝たように、それぞれの風土に根ざしたすわり方が残っていてもいいのではないかと思いますね。

(2019年7月5日、生活工房にて)



渡し舟を待つ(マリ, 2011年)



市場にて(エチオピア, 2006年)



火の番をする(エチオピア, 2006年)

展覧会情報

井上耕一さん(デザインリサーチャー)はアジア山間部での旅を続けるうち、彼らがいわゆる西洋的な椅子を必要とせず、両足の裏を地面につけたまま腰を下ろし、両膝を立ててしゃがんだ姿勢でさまざまな動作をし、必要に応じて低い腰かけを使っていることに気がきます。井上さんはこの名もない姿勢を「あの坐り方」と呼び、人間本来の、古くからある身体の使い方ではないかという推測から、アフリカにも調査に赴きます。本展では、井上さんによる30年以上におよぶ〈すわる〉フィールドリサーチから、アジアとアフリカの膨大な写真と、20数点の低い腰かけを展示。歴史的・建築的観点からの座具や、移動・定住社会と椅子との関係も見つめながら、旅するように〈すわる〉を考えます。

●〈すわる〉を旅する

——アジアとアフリカの、あの坐り方と低い腰かけ

11.16(sat)～12.8(sun) 10:00～18:00(金曜のみ20:00まで)
入場無料 月曜休み 会場:ワークショップルームB、生活工房ギャラリー

As he continued his trip throughout the mountainous regions of Asia, Koichi Inoue (design researcher) noticed that the local people do not need Western chairs, they just go about their lives in a squatting position, resting with both feet flat on the ground and knees pointed up, using a low stool when necessary. Inoue calls this unnamed position “that way of sitting”, and goes to Africa to research, speculating that it may be how humans have used their bodies since long ago. This exhibition includes enormous photographs taken in Asia and Africa, as well as a display of more than 20 low stools collected over Inoue’s more than 30 years of field research on ‘squatting’. Take a ‘squatting’ journey while looking at the seats from a historical and architectural viewpoint, and looking at the relationship between chairs and wandering versus settled societies.



井上耕一(いのうえ こういち)

デザインリサーチャー。1971～2003年、専門学校桑沢デザイン研究所にて教職。展覧に「しゃがむ—あの坐り方と低い腰掛」(2003年)、「アジアはキツチ」(2006年)。著書に『アジアに見る坐り方と低い腰掛』(丸善出版)、『身体装飾の現在I、II、III』(朝倉書店)がある。

Koichi Inoue

Design researcher. Taught at Kuwasawa Design School from 1971 to 2003. Solo exhibits include “Asian Squatting Styles and Low Stools” (2003) and “Asia is Kitsch” (2006). Authored “Asian Squatting Styles and Low Stools” (Maruzen Publishing) and “Modern Personal Adornment I, II, III” (Asakura Publishing Co.).

コラム すわりのいい銭湯

あの低い腰かけが置かれた銭湯の洗場。
デザイナー・イラストレーターの
クボタノブエさんが、
ほぼ毎日のように通っていた
「世田谷温泉四季の湯」の日常を
紹介します。



illustration: クボタノブエ



私は過去に3年間、東京都世田谷区にある「世田谷温泉四季の湯」という銭湯に通っていた。

その期間の中で一番最初にできた知り合いは、70歳を超えたくらいのおばあちゃんだった。

覚えていることは、彼女が頻繁に私の背中を流してくれていたことだ。私が体を洗おうとすると彼女がやってきて、近くに置いてある腰かけにすわり背中だけ流してくれるのだ。

銭湯の腰かけの高さは25cmくらい。

デスクワークを終えた日にその腰かけにすわろうとすると、かなり腰にくるものがある。高齢者になるとその苦労は想像できない。

当時、今よりもうだつが上がらない日々を送っていた私の背中には、きつと情けなく見えていたのかもしれない。彼女が背中を流す力は、押されるほど強かった。

この前四季の湯へ向かったら、数年ぶりにおばあちゃんに会った。なんとなく、今度は私が腰かけにすわって背中を洗い流してみた。毎日話していた時のように、他愛のない会話だけが銭湯に響き渡った。

クボタノブエ

グラフィックデザイナー・イラストレーター。2012年ごろから、現在のかたちとなるグラフィックを制作し始める。日常の景色で見たものを、確かな愛情を持って描いている。
<https://kubotanobue.com/>



連載コラム 世田谷のおとなりさん③



シホさん ある日のおにぎり

今回登場するのは世田谷区上馬にお住まいのシホさん。笑顔で出迎えてくれたシホさんは、メガネとポブヘアがお似合いの素敵な女性です。1年前、京都から突然上京。今は都内の広告代理店で働いています。チームのスケジュール調整や翻訳、撮影のサポートと忙しい毎日。この日は、会社を持っていく昼ごはんのおにぎりのみそ汁をつくっていただきました。京都に住んで大好きになった塩昆布と地元・千葉県の多古米で大きなおにぎりを握ります。

「今の職業について間もないので、仕事中はどんなことが起きるのかなと日々ドキドキしています。だから昼休みはホッとできる大切な時間です」と教えてくれました。

大学卒業後、都内の一般企業で働いていましたが、ある時デンマーク留学を決意。誰でも学べる全寮制学校のフォルケホイスコーレで、憧れだったチェロをイチから学びました。「面白かったですね。特殊な体験をしました。仕事には全くいかせてないけど」。笑いながら、シホさんは飾らないやわらかな表情で語ります。帰国後は、いつか日本でチェロが弾きたいと思いながら、東京や京都で新たな仕事にチャレンジしてきました。

東京、デンマーク、東京、京都、そして今また東京……さまざまな土地でしなやかに適応しながら暮らすシホさん。出来上がったお米と昆布だけのシンプルなおにぎりのなかには自然体であること、その強さが込められているようでした。



photo: 河内瑠璃

〈シホさんのレシピ〉

- ・お米…2合
- ・小松こんぶ(塩昆布)…小さじ2

みそ汁

- ・花かつお…ふたつかみ
- ・水…400cc
- ・とうふ…150g
- ・おくら…3本
- ・ぶなしめじ…1パック
- ・合わせ味噌…25g



〈つくり方〉

おにぎりは、ラップでにぎります。少しだけラップをはがしてカタチを整えるのがポイント。塩ものりもつかいません。

みそ汁は、鍋に水と花かつおを入れ、火にかけます。ちょっと温まってきたら具材を入れ、ひと煮立ちしたら味噌を入れる。花かつおも具材としておいしくいただきます。

昼ごはんの時は、おにぎりはラップのまま、みそ汁はジップロックに盛り付けます。会社の電子レンジで温め直して食べているそうです。

カタチはそのときの気分できめます。

ワークショップ／セミナーの申込方法

- 電話 03-5432-1543
 - 往復ハガキ／メール [希望イベント名・希望日時・住所・氏名 (ふりがな)・電話番号を明記の上、下記宛先まで]
- ハガキ: 154-0004 世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー 生活工房宛
メール: info@setagaya-ldc.net (件名に希望イベント名を明記)

Exhibition

家族って

しまおまほと家族、その記憶と記録

9.21 (sat) ~ 11.10 (sun) 9:00 ~ 21:00 入場無料
月曜休み (祝日はのぞく) 会場: 生活工房ギャラリー

社会の移り変わりやライフスタイルの変化にともない多様化する家族のあり方。人それぞれに異なる“家族像”が描かれる現代において、エッセイストのしまおまほさんと家族について考えます。

企画制作: 杉本勝彦

The Essence of Family

Memories and records of Maho Shimao and her family

Closed on Mondays (2019 exceptions: Sept. 23, Oct. 14, Nov. 4) Admission Free
Venue: Seikatsu-Kobo Gallery

As our societies and lifestyles change, the idea of family becomes more diverse. In this age, the ideal “family model” is painted differently for each person. Together with essayist Maho Shimao, we consider what family is.



photo: Shinzo Shimao

トークイベント

「家族を記すこと しまおまほと植本一子」

10.5 (sat) 14:00 ~ 15:30 会場: ワークショップルーム B

写真家であり、家族に関する著作やエッセイも多い植本一子さんとともに、自身の家族やその生活を描くことについてお話しいただきます。

講師: しまおまほ、植本一子 参加費: 1,000円 / 50名 (先着)
申込: 電話かメール (P10 参照) にて

Event

パオフェスタ2019

市民活動体験喫茶パオ

10.19 (sat)・20 (sun) 11:00 ~ 18:00 会場: 市民活動支援コーナー

市民活動支援コーナー登録団体の活動を、各団体が企画した体験コーナーやパネル展示などで紹介する喫茶スペースです。

Pao Festa 2019

Community Experience Cafe Pao

Venue: Community Corner

This cafe space introduces activities planned by registered Community Center groups through experience corners or panel displays.

Workshop

日常を見限らない 匂いのワークショップ

日常生活の中で見落とされた無数の出来事を、研究者やアーティストとともに五感を使って味わい直すワークショップ・シリーズ。

※本企画は全行程にカメラが入り記録映像としてWEB上で後日公開します。

Talk「われ匂う、ゆえにわれ在り? — 匂いから捉える日常空間と記憶」

10.14 (mon) 13:00 ~ 15:00 会場: ワークショップルーム B

国際的な嗅覚アートの展示を多く手掛ける岩崎陽子さんに、私たちの日常空間と匂いの関係について伺います。

講師: 岩崎陽子 (嵯峨美術短期大学准教授)

参加費: 500円 / 40名 (先着) 申込: 電話かメール (P10 参照) にて

Workshop「匂いに気づく」「匂いと記憶」

10.22 (tue)・11.4 (mon) 10:00 ~ 17:00 [2日完結]

会場: ワークショップルーム A・B

本に集積された残香を読み取ることから、嗅覚の仕組みや感覚差を体験。そして匂いの記憶を表す素材から作品を作ります。

講師: 井上尚子 (美術作家)、白須未香 (嗅覚研究者) 対象: 高校生以上
参加費: 2,000円 (2日分) / 20名 (先着) 申込: メール (P10 参照) にて

Re-encounter the World A Scent Workshop

Venue: Workshop Room A・B

In this series of workshops, researchers and artists help participants re-experience easy-to-miss everyday events through the five senses.

*The entirety of this project will be recorded and released on the web as a video at a later date.



photo: Barbara Donaubaue
“Die Bibliothek der Gerüche” 展
(2017年ミュンヘン)
関連ワークショップの参加者

photo: Barbara Donaubaue
“Die Bibliothek der Gerüche”
exhibition (Munich, 2017)
Participants in the related workshop

Seminar

第45回世田谷おはなしネットワーク講演会

ブックトーク Part2 ~子どもと本との出会いの場をつくる

11.19 (tue) 10:00 ~ 12:00 会場: セミナールーム A・B

昨年に引き続きPart2と題して、青木淳子さんが「ブックトーク」の方法とそのポイントをお話しします。前回参加できなかった方もお気軽にお申込ください。

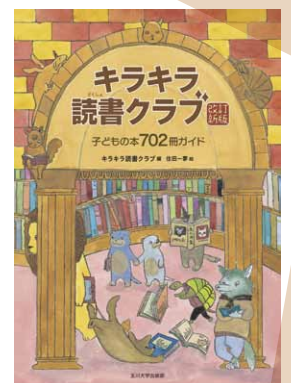
講師: 青木淳子 (元学校司書)
主催: 世田谷おはなしネットワーク
参加費: 100円 / 20名 (抽選)
申込: 11月1日 (必着) までに
往復ハガキにて

The 45th Setagaya Story Network Lecture Book Talk Part 2

— Creating a Space for Children to Encounter Books

Venue: Seminar Room A・B

Continuing from last year, Atsuko Aoki will talk about the “Book Talk” method and points in Part 2. Please feel free to apply, even if you didn't participate last time.



『キラキラ読書クラブ改訂新版』
(青木淳子他共著) 玉川大学出版部

“Kirakira Dokusho Kurabu Revised Edition”
(collaboration with Atsuko Aoki et al.)
Tamagawa University Press

Exhibition

〈すわる〉を旅する

— アジアとアフリカの、あの坐り方と低い腰かけ

11.16 (sat) ~ 12.8 (sun) 10:00 ~ 18:00 (金曜のみ 20:00 まで)
 入場無料 月曜休み 会場: ワークショップルーム B、生活工房ギャラリー
 西洋的な椅子を必要としない、アジアとアフリカの〈すわる〉習慣。
 人間の身体と道具の関係に、各地域での腰かけの実物と写真から迫る
 展覧会。

特別協力: 井上耕一

A 〈squatting〉 Voyage

— Asian and African squatting styles and low stools

Closed on Mondays Admission Free
 Venue: Workshop Room B, Seikatsu-Kobo Gallery

Asian and African 〈squatting〉 customs which do not require Western chairs.
 This exhibition approaches the relationship between human bodies and tools
 through displays of real low stools and photographs from each region.



photo: Koichi Inoue

① スライドトーク「人類の移動と〈すわる〉を考える」(仮題)

11.23 (sat) 14:00 ~ 15:30 会場: ワークショップルーム A

移動と定住、そして風土とすわり方の関係について、講師による膨大な
 フィールドワークの写真から探ります。

講師: 井上耕一 (デザインリサーチャー) 参加費: 500 円 / 50 名 (先着)
 申込: 10 月 25 日 10:00 より電話かメール (P10 参照) にて

② 身体 0 ベース運用法「〈すわる〉からトレーニングする」

12.1 (sun) 13:00 ~ 17:00 会場: ワークショップルーム A

人間本来の身体機能を再発見する試み・身体 0 ベース運用法。今回は
 様々な〈すわる〉姿勢をトレーニングしながら、身体の可能性をひらきます。

講師: 安藤隆一郎 (身体 0 ベース運用法) 参加費: 1,500 円 / 20 名 (先着)
 申込: 10 月 25 日 10:00 より電話かメール (P10 参照) にて

Seminar

NPO・市民活動のためのステップ・アップ講座

組織づくりのためのヒント／コツを学ぼう!!〈広報編〉

12.3 (tue)・10 (tue) 19:00 ~ 21:30

会場: セミナールーム B

昨年に引き続き「広報」をテーマに開催します。第一線で活躍している
 専門家から NPO をはじめとした市民活動ならではのアプローチ方法を
 学びます。

企画進行: 株式会社世田谷社

※詳細は 10 月上旬に生活工房ホームページでお知らせします。

Step-Up Course for NPO and Citizen Activities

Learn the hints and tricks for creating an organization!! 〈Publicity Edition〉

Venue: Seminar Room B

We will continue the theme of "publicity" from last year, learning approaches and
 methods for citizen activities such as NPOs from experts working on the front line.

Seminar

分身ロボット OriHime で会いにゆく

孤独を消すためのデザイン

12.8 (sun) 14:00 ~ 16:30 会場: セミナールーム A・B

不登校やひきこもりといった精神的・身体的な理由で外出できない人の
 孤独の解消を目指す、分身ロボットを活用した「オリィ研究所」の
 挑戦について伺います。

講師: 吉藤オリィ (ロボットコミュニケーター)

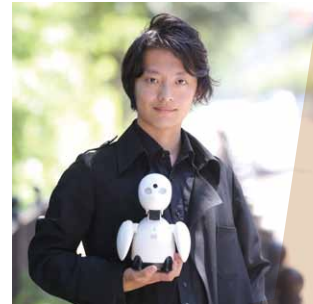
対象: 10 ~ 18 歳くらいの方 参加費: 500 円 / 90 名 (先着)

申込: 10 月 25 日 10:00 より電話かメール (P10 参照) にて

I Can Finally Go Meet Them through Avatar Robot OriHime
Designed to Eliminate Loneliness

Venue: Seminar Room A・B

Hear about Ori Laboratory's
 challenge to utilize the avatar robot
 in eliminating loneliness for
 those who cannot go out due to mental
 or physical reasons, such as school
 refusal and social withdrawal.



吉藤オリィさん
 Ori Yoshifuji

Exhibition

プレーバック、プレーパーク! 遊び場をめぐる冒険(仮題)

12.14 (sat) ~ 2020.1.19 (sun) 9:00 ~ 21:00 入場無料
 月曜休み (祝日はのぞく)・年末年始休館 会場: 生活工房ギャラリー

1979 年、子どものための遊び場「プレーパーク」が羽根木公園の一角に
 誕生しました。本展は、この羽根木プレーパークの成り立ちを紐解き、
 その歴史を「プレーバック」する展覧会です。

特別協力: NPO 法人プレーパークせたがや

Play Back, Playpark! An Adventure Around Playgrounds (tentative title)

Closed on Mondays (2019 - 2020 exceptions: Dec.28 - Jan.3, Jan.13)

Admission Free Venue: Seikatsu-Kobo Gallery

In 1979, "Playpark", a play area for children, was born in the corner of Hanegi Park.
 This exhibition "plays back" the history and unravels the origin of this Hanegi Playpark.

はじめてのプレーパーク・ツアー (仮題)

12 月下旬 (予定)

会場: 羽根木プレーパーク (世田谷区代田 4-38-52)

プレーパーク初心者のためのツアー企画。運営に携わる世話人が
 羽根木プレーパークを案内します。

参加費: 500 円 (保険料込) / 10 名 (抽選)

※詳細は 10 月下旬に生活工房ホームページでお知らせします。



© NPO 法人プレーパークせたがや
 © Playpark Setagaya, NPO

Event

火と人の上映会 vol.3「火がつくるもの」／vol.4「火に祈る」

人の生活は古来、火とともにあった——。火と人が紡いできた物語を、テーマごとに集めた記録映像から探る連続上映会。 共同企画制作：といのきデザイン事務所

参加費：各回500円（資料・ドリンク代）／各回40名（先着） 申込：不要、直接会場へ

①vol.3「火がつくるもの」

12.21 (sat) 14:00～17:00 会場：ワークショップルームB

上映作品＝『茂庭の炭焼き』（1989年／民族文化映像研究所）、『飲物用の土器づくり』（1968年／ナタール・ズルー族／エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ）ほか計10作品

②vol.4「火に祈る」

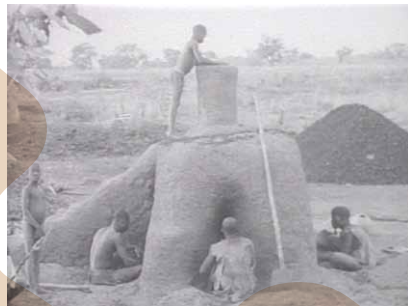
12.28 (sat) 14:00～17:00 会場：ワークショップルームB

上映作品＝『土と火と水と バリ島の葬式』（1988年／国立民族学博物館）、『那智の扇祭り』（1979年／東京シネマ新社）ほか計10作品

Film Screening: Fire and Humans vol.3 Made By Fire / vol.4 Pray to Fire

Venue: Workshop Room B

Humans have lived together with fire since ancient times. A film series of video recordings collected on various themes of the story spun by fire and humans.



『沼鉄釜の精錬』（1955年／西アフリカ・セヌフォ族／エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ）©（公財）下中記念財団

Refining Swamp Iron Ore (1955 / Senoufo people, West Africa / Encyclopaedia Cinematographica) ©The Shimonaka Memorial Foundation

※vol.3「火がつくるもの」で上映します。

Seminar

朗読講座 豊かなことばの世界

①水曜講座（午前・午後）〈名作を読む〉

11.6 (wed)・13 (wed)・20 (wed)・27 (wed)

各回 10:30～12:30 / 13:30～15:30

講師：岩井正（NHK日本語センター）

作品：新美南吉著『おじいさんのランプ』

②木曜講座（午後）〈はじめての朗読〉

11.7 (thu)・14 (thu)・21 (thu)・28 (thu) 各回 13:30～15:30

講師：秋山隆（NHK日本語センター）

作品：浅田次郎著『鉄道員（ぽっぽや）』

③金曜講座（午後）〈はじめての朗読〉

11.15 (fri)・22 (fri)・29 (fri)・12.6 (fri) 各回 13:30～15:30

講師：金野正人（NHK日本語センター） 作品：芥川龍之介著『杜子春』

会場：セミナールームA

ことばの持つ豊さ、力、輝きを「朗読」を通して体感します。
NHK日本語センターアナウンサーが講師となり、声の出し方、読み方などを丁寧に指導します。

受講料（4回分）：一般20,500円、せたがやアートカード会員18,500円／
各クラス15名（申込先着） ※応募者僅少のため、閉講になる場合があります。
問・申込：（一財）NHK放送研修センター
TEL 03-3415-7121（受付時間9:00～18:00） HP <http://www.nhk-cti.jp/>

Recitation Course: A World of Abundant Words

① Wednesday Course (morning – afternoon): Reading masterpieces

② Thursday Course (afternoon): Beginners recitation

③ Friday Course (afternoon): Beginners recitation

Venue: Seminar Room A

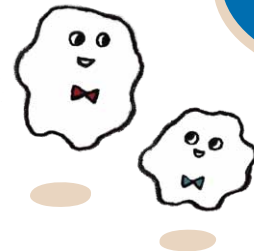
おたすね工房

〈生活工房スタッフからの回覧板〉

計画中の展覧会やイベントに情報提供いただける方を探しています。
ご協力内容の詳細は、電話・返信でお伝えします。
ぜひ、お気軽にご連絡ください。

もうすぐオリンピックだね。
1964年の東京オリンピックの
ときに民泊（ホストファミリー）
として外国の方々にご自宅を
提供した方、知りませんか？

展覧会の準備をしてい
るよ！2020年のお正月
飾りを飾っている写真
を送ってほしいな～



ご連絡先

メール info@setagaya-ldc.net

電話 03-5432-1543



クラシー（右） カワルン（左）
生活工房ワークショップルーム
A・コミュニティキッチンをねぐ
らに、生活工房内をただよい
ながら探検している妖精。おも
しろそうなイベントがあると、
ふわふわと姿をあらわします。

季刊生活とは

もし、みえない誰かの生活と、ここで偶然出合ったら、
そこから、何が読めるでしょうか？

何もないようで、いつも何かが起きている
季刊生活はあなたと誰かの日常を、
行ったり来たりする回覧板です。

If you happen to encounter the unseen life of another,
what, then, would you discover?

It may feel like nothing,
but something is always happening.
Seikatsu Quarterly is like a bulletin board,
traveling back and forth between your daily lives.

季刊生活
第3号

発行日：2019年9月15日
編集：生活工房 石山那緒子
編集協力：杉本勝彦
デザイン・編集協力：牧寿次郎
翻訳：株式会社インターブックス
印刷：三永印刷株式会社
発行：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

Quarterly:
SEIKATSU 3

Issue date: September 15, 2019
Editor: Lifestyle Design Center Naoko Ishiyama
Editing Cooperation: Katsuhiko Sugimoto
Design, Editing Cooperation: Jujiro Maki
Translation: Interbooks Co., Ltd.
Printing: SANEI PRINTERY CO., LTD.
Issued by Lifestyle Design Center, Setagaya Arts Foundation

生活工房のご案内

生活工房は

世田谷区が設置したユニークな文化施設です。

デザイン、文化、環境などをテーマに、
展示やイベントを開催しています。

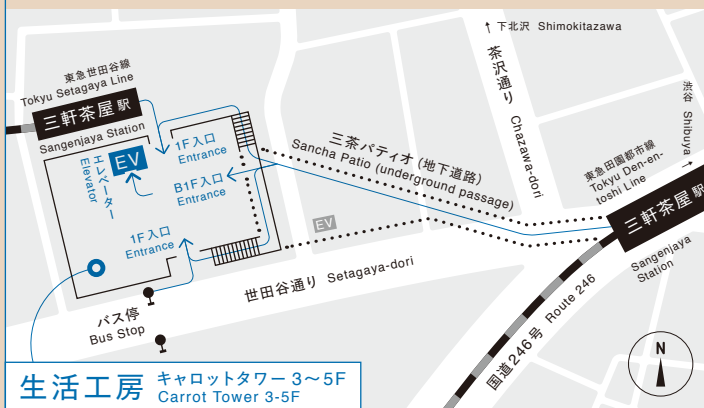
また、コミュニティ・キッチンをはじめ、
展示、ワークショップ、セミナー、ミーティングなどに利用できる
部屋の貸出を行っています。

The Lifestyle Design Center is

a unique cultural facility established by Setagaya city.

Exhibits and events are held on themes of design, culture, environment, etc.

We have a community kitchen and rooms for exhibits, workshops,
seminars, and meetings available to rent.



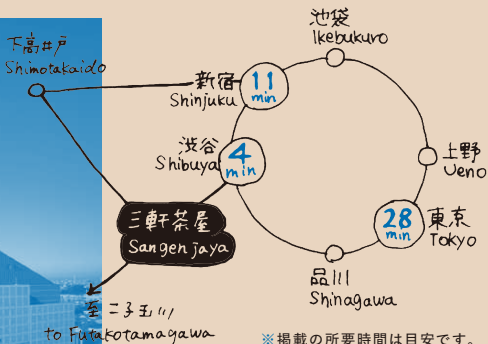
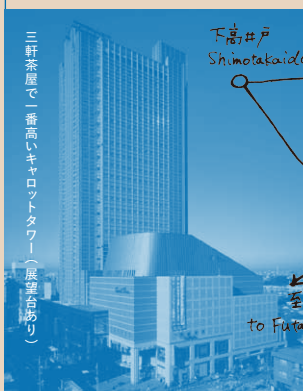
生活工房 キャロットタワー 3～5F
Carrot Tower 3-5F

アクセス

- 東急田園都市線「三軒茶屋」駅 三茶パティオ口 徒歩5分
地下通路より1F入口またはB1F入口（東急ストア入口の右隣）に
入り、キャロットタワー内のエレベーターをご利用ください。
- 東急世田谷線「三軒茶屋」駅直結
- 東急・小田急バス「三軒茶屋」停留所そば

Access

- Tokyu Den-en-toshi Line: 5-minute walk from the Sancha Patio exit at Sangenjaya Station
Subway passage: 1F or B1F entrance, take the elevator inside Carrot Tower
- Tokyu Setagaya Line: Directly connected to the Sangenjaya Station
- Tokyu Bus, Odakyu Bus: Located near the Sangenjaya Station stop



お問い合わせ (公財) せたがや文化財団
世田谷文化生活情報センター

生活工房

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
Tel 03-5432-1543 Fax 03-5432-1559
Mail info@setagaya-ldc.net

Contact

Lifestyle Design Center

Carrot Tower, 4-1-1 Taishido,
Setagaya-ku, Tokyo, 154-0004

Setagaya Arts Center
Setagaya Arts Foundation

<https://www.setagaya-ldc.net>

[Twitter](#) [Facebook](#) [Instagram](#)

